



令和5年7月19日

南相馬市議会議長

会派名 志政会  
代表者氏名 鈴木 昌一 印

## 調査研究報告書

- 1 期間 令和5年7月13日（木）
- 2 参加者 ① 鈴木 昌一 ② 岡崎 義典  
③ \_\_\_\_\_ ④ \_\_\_\_\_  
⑤ \_\_\_\_\_ ⑥ \_\_\_\_\_
- 3 旅行先及び調査研究内容 別紙のとおり

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                        |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------|
| 月日                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 令和５年７月１３日（木）           |
| 旅行先                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 福島県大沼郡三島町（奥会津在宅医療センター） |
| 調査研究事項                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 奥会津在宅医療センターの取り組みについて   |
| 〔内容〕奥会津在宅医療センターは、奥会津地域４町村（柳津町、三島町、金山町、昭和村）の高齢・過疎地域に在宅医療を提供するため２０２０年７月にスタートした。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                        |
| <p>770k㎡に 7,500 人弱が生活をしているこの医療過疎地域は高齢化率も 50%を超えており、在宅医療の重要性が増している。</p> <p>現在福島県のモデル事業として行われており、医師も福島県立医科大学に籍を置き、同じ地域の県立宮下病院と連携を取りながら 100 人程度の患者を診ている。</p> <p>１日に診られる件数は５件程度のため、２人の医師では 150 人程度が限界であり、採算性は悪い。</p> <p>持続可能な取り組みになるよう、経営コンサルタントに何度か相談したがどうしても赤字になってしまう。県が財源を見つけてくれたが、今後はどこまで赤字を圧縮できるかが課題と捉えているとのこと。</p> <p>地方だからこそ見守り体制はできており、訪問診療、訪問薬剤師、デイサービス、ショートステイなどを組み合わせながら切れ目ない支援を行うことができている。専門性の強い急性期病院は融通が利かない。高齢者が地域の中で関係性を持って生きていけたらと考える。</p> <p>とても強い使命感をもって取り組んでおられると感じました。本市の小高区の課題にも共通した点もあり、今後も注視していきたい。</p> |                        |

令和5年度 政務活動費 調査研究に係る自家用車利用証明書

車賃 25円/km(南相馬市職員等の旅費に関する条例第25条)

| 年月日       | 目的                         | 発          | 目的地1<br>(所在地)               | 目的地2<br>(所在地) | 目的地3<br>(所在地) | 着          | 自家用車(25円/km)         |                   | 運転手名 | 乗者人数 | 備考<br>(車両の所有者など) |
|-----------|----------------------------|------------|-----------------------------|---------------|---------------|------------|----------------------|-------------------|------|------|------------------|
|           |                            |            |                             |               |               |            | 走行距離 km<br>(整数、端数切捨) | 算定額<br>(走行距離×25円) |      |      |                  |
| 2023/7/13 | 視察研修<br>(南相馬市→福島県三島町までの移動) | 南相馬市       | 奥会津在宅医療<br>センター<br>(福島県三島町) |               |               | 福島県<br>三島町 | 194km                | 4,850円            | 鈴木昌一 | 2人   | 鈴木昌一             |
| 2023/7/13 | 視察研修<br>(福島県三島町→南相馬市までの移動) | 福島県<br>三島町 |                             |               |               | 南相馬市       | 194km                | 4,850円            | 鈴木昌一 | 2人   | 鈴木昌一             |
|           |                            |            |                             |               |               |            | km                   | 円                 |      | 人    |                  |
|           |                            |            |                             |               |               |            | km                   | 円                 |      | 人    |                  |
|           |                            |            | ( )                         | ( )           | ( )           |            | km                   | 円                 |      | 人    |                  |
|           |                            |            | ( )                         | ( )           | ( )           |            | km                   | 円                 |      | 人    |                  |
|           |                            |            | ( )                         | ( )           | ( )           |            | km                   | 円                 |      | 人    |                  |
| 計         |                            |            |                             |               |               |            | 388km                | 9,700円            |      |      |                  |

研究研修費、調査旅費で支出する場合に記録するものです。  
①その都度記録し、事務局へ一旦提出願います。  
②収支報告書提出時に、会派名、証明者名を記載して一緒に添付願います。  
③目的地が4以上の場合、2行に分けて記載してください。  
④私的な用務が行程にある場合は、それに係る走行距離数は除いてください。

2023/7/20

上記のとおり相違ないことを証明します。

会派名  
代表者名  
経理担当者名

志政会  
鈴木 昌一  
岡崎 義典



政務活動費 旅費領収明細表

志政会 代表 鈴木 昌一

(単位 円)

| 氏 名    | 旅 費 内 訳 |       | その他    | 合 計    | 受領印 | 摘 要                                                    |
|--------|---------|-------|--------|--------|-----|--------------------------------------------------------|
|        | 運 賃 等   | 宿 泊 料 |        |        |     |                                                        |
| 鈴木 昌一  |         |       |        |        |     |                                                        |
| 岡崎 義典  |         |       |        |        |     |                                                        |
| (高速料金) |         |       |        |        |     |                                                        |
| (車賃)   |         |       | 9,700  | 9,700  |     | 走行距離計388km×@25円(南相馬市⇄福島県三島町)<br>車両台数1台<br>※自家用車利用証明書添付 |
| (駐車場代) |         |       |        |        |     |                                                        |
| (手土産代) |         |       | 3,240  | 3,240  |     | ※領収書No.1のとおり                                           |
| 計      | 0       | 0     | 12,940 | 12,940 |     |                                                        |

地域包括ケアを多職種で実現！

# 地域連携 入退院と在宅支援

Web教材 + 隔月刊誌(定期刊行物・会員制)

日総研グループ/日総研出版 2022年3月31日発行



[www.nissoken.com](http://www.nissoken.com)

TEL ☎ 0120-054977 FAX ☎ 0120-052690

E-mail [cs@nissoken.com](mailto:cs@nissoken.com)

# 日本トップクラスの過疎・高齢・豪雪地域での在宅医療の展開

公立大学法人福島県立医科大学 会津医療センター



## 柏木久美子

奥会津在宅医療センター  
在宅看護専門看護師

2000年群馬県立医療短期大学卒業。一般外科病棟、ICU、訪問看護ステーション、退院調整看護師を経て現職。



## 鎌田一宏

総合内科学講座  
特任准教授

2010年北里大学卒業。都立駒込病院、水戸協同病院、シンガポール国立大学病院、ルワンダ軍事病院、筑波メディカルセンター、東京城東病院、厚生労働省、イタリア国立感染症研究所、ヤンキン小児病院などを経て現職。



## 山中克郎

総合内科学講座 教授  
奥会津在宅医療センター センター長  
総合診療医センター センター長

1985年名古屋大学医学部卒業。名古屋医療センター、カリフォルニア大学サンフランシスコ校 (UCSF)、藤田保健衛生大学救急総合内科教授、諏訪中央病院院長補佐を経て、2019年から現職。

## 奥会津地域の現状と事業開始の経緯

福島県奥会津地域の4町村（柳津町、三島町、金山町、昭和村）は、福島県西部に位置しており、東京23区よりもやや広い面積に7,466人（2021年6月1日現在）が暮らしている。このうち3町村は高齢化率50%を超える、全国的にトップクラスの高齢・過疎地域である（図1）。特別豪雪地帯にも指定されており、冬期間は雪に阻まれ、住民にとって生活する上での脅威となる。

奥会津では保健医療福祉資源が少なく、医

師不足や医師の高齢化、24時間対応可能な訪問看護ステーションが設置されていないなど医療過疎地域でもある（表）。このような僻地では採算が合わないために民間業者の新規参入も期待できず、公的な機関においても採算性が重視されるため新たな社会資源の構築も難しい。

2019年4月、福島県立医科大学会津医療センター（以下、会津医療センター）に着任した総合内科学講座の山中克郎教授は、奥会津地域の実態を見て在宅医療を推進する必要性を強く感じ、在宅医療拠点整備事業（以下、本事業）を創案し、福島県に提案して事業化が決まった。そして、これからの僻地における在宅医療や医療・介護連携のモデルとなる構想のもと、2020年7月から活動をスタートした。

本事業の概要を図2に示す。消費税を財源とする医療介護総合確保推進法に基づく福島県の保健福祉部地域医療課補助事業で、補助

## 奥会津 在宅医療センター

### 施設概要

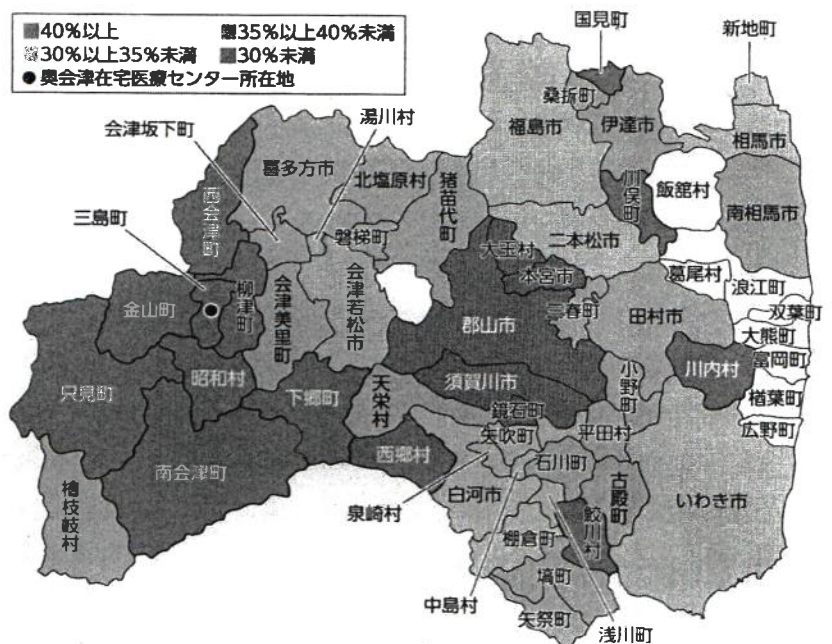
会津若松市にある福島県立医科大学会津医療センターの医師と看護師が福島県立宮下病院と連携して、少子高齢化が進む奥会津4町村（柳津町・三島町・金山町・昭和村）において、2020年7月から在宅医療・介護体制の充実に向けた取り組みを開始している。住民に対する訪問診療や訪問看護の提供に加え、各町村や関係機関との調整や相談などにも携わっている。これからのへき地における在宅医療および医療・介護連携のモデルとなる構想の下、活動を続けている。

福島県大沼郡三島町



期間は2022年度までである。この地域唯一の基幹病院である福島県立宮下病院（以下、宮下病院）は、4町村を対象とした在宅医療・介護体制の充実に向けた取り組みを開始した。ここに会津医療センターの医師、看護師らによるチームが派遣されて「奥会津在宅医療センター」（以下、当センター）として、宮下病院と協働して地域内の訪問診療・訪問看護・予防医療を展開している（事業収益はすべて宮下病院に入る）。さらに、2021年7月からは、在宅医療介護連携推進事業として福島県からの委託により、同じく会津医療センターが運営する「奥会津在宅医療・介護連携支援センター」が開設された。医療機関や介護関係者、関係機関の連携を推進し、高齢者等の保健福祉の増進と地域包括ケアシステムの構築を進めており、当センターは4町村の在宅医療と医療・介護連携

図1 福島県の市町村別65歳以上人口割合



福島県ホームページ：福島県の高齢者の数（65歳以上人口）～「敬老の日」にちなんで～

図2 在宅医療拠点整備事業の概要  
（保健福祉部地域医療課補助事業：2020～2022年度）

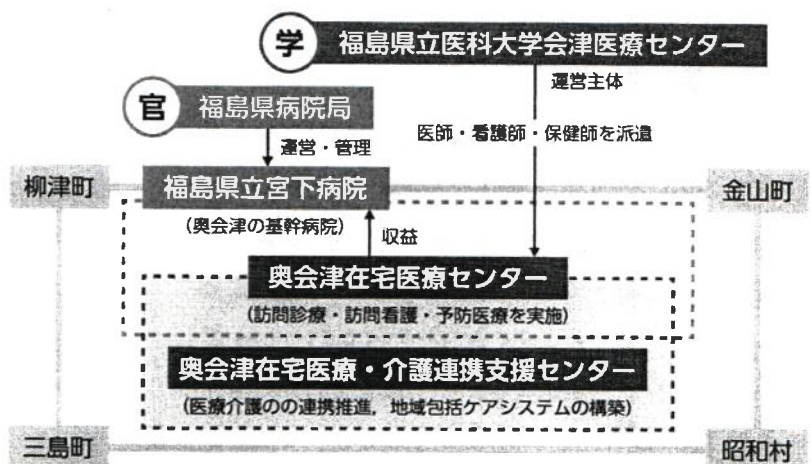


表 奥会津地域の特性

|     | 人口（人）       | 面積（km <sup>2</sup> ） | 人口密度（人/km <sup>2</sup> ） | 高齢者数（人）    | 高齢化率（%） | 医師数     | 医療機関数                     |
|-----|-------------|----------------------|--------------------------|------------|---------|---------|---------------------------|
| 全国  | 125,470,000 | 377,974.63           | 332.0                    | 36,340,000 | 29.0    | 316,409 | 96,171（病院8,182，診療所87,989） |
| 福島県 | 1,808,992   | 13,784.13            | 131.2                    | 582,729    | 32.6    | 3,737   | 1,206（病院127，診療所1,079）     |
| 奥会津 |             |                      |                          |            |         |         |                           |
| 柳津町 | 3,048       | 175.82               | 17.3                     | 1,406      | 46.1    | 1       | 1（病院0，診療所1）               |
| 三島町 | 1,397       | 90.81                | 15.4                     | 764        | 54.7    | 7       | 1（病院1，診療所0）               |
| 金山町 | 1,862       | 293.92               | 6.3                      | 1,116      | 59.9    | 1       | 1（病院0，診療所1）               |
| 昭和村 | 1,159       | 209.46               | 5.5                      | 658        | 56.8    | 1       | 1（病院0，診療所1）               |

福島県ホームページ：年齢別推計人口（令和3年6月1日現在）、総務省統計局ホームページ：人口推計、JMAP地域医療情報システム、国土交通省国土地理院ホームページ：令和3年全国都道府県市区町村別面積調（10月1日時点）、福島県ホームページ：福島県の高齢者の数（65歳以上人口）～「敬老の日」にちなんで～を基に筆者作成

を担う一大拠点となった。

当センターには、福島県（官）と会津医療センター（学）の合意を得ながら、4町村の行政や専門職と協働して限られた資源を最大限活用し、地域住民の疾病予防から看取りまでを担う最後の砦としての使命がある。これまで、在宅医療という文化がなかなか定着しなかった奥会津で、10年、20年後も「住み慣れた地域で最期まで」をサポートする在宅医療を根付かせるために、多機関、組織の合意を得ながら事業を展開している。

## 事業開始前の奥会津地域

当センターで活動する看護師の中には、病院の患者支援部門で退院調整や外来患者の在宅療養支援を行っていた者もいる。奥会津から通院・入院する患者の退院調整では、地域で安心して生活できるよう訪問診療や訪問看護につなぎたいと思っても、十分な資源がなく、不安を残したまま退院せざるを得ず、施設入所となってしまうケースもあり、患者や家族の希望を尊重することが難しい地域であった。

住民の「一人暮らしの高齢者ばかり。ここも、そこも空き家。病院に通うにも足がない。昔は近所の人に乗せてもらったけど、近所の人だんだんいなくなっちゃった」という発言からは、高齢化と人口減少が顕著に進んだことによって、医療へのアクセスが困難な現状がうかがえる。また、「家で死ぬと検死になっちゃう」という言葉からも分かるように、住み慣れた地域で安心して最期を迎えることができない現実があった。同じく住民からは、「症状が出た時に訪問診療の先生に

来てほしい」など、救急対応を望む声も多い。

さらに行政、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所からは、とにかく人材不足という声が多かった。当時、地域包括支援センターの職員がたった一人という町もあり、介護事業所ではヘルパーの数が少ないために、必要な支援に入ることが困難であった。ケアマネジャーからは、「在宅看取りの経験がない。訪問診療や訪問看護を利用したことがないので使い方が分からない」などの声があり、在宅医療の整備が急務であった。当センターが、安心して在宅療養をするための新たな選択肢の一つとなったことに大きな期待が寄せられている。

## 訪問診療・訪問看護の実際

当センターは、宮下病院から徒歩3分、町のメインストリートに位置している。三島町から古民家をお借りし、医師3人、看護師4人、保健師1人、運転手2人、事務2人が常駐している。2022年1月末現在の登録患者数は88人、累計患者数は119人である。最も遠い患者宅は、片道1時間を要する場所もあり、冬期間は雪の影響でさらに時間がかかる。移動距離が長いため、都市部のように1日に何件も訪問することはできない。また、国道から脇道に入ると携帯電話がつかないため、タイムリーに緊急の電話を受けられないこともある。

患者ゼロからスタートした当初は、「在宅医療とは何をしてくれるのか？」という住民の疑問に答えるため、行政や地域包括支援センターの協力を得て、地区公民館や民生委員の会議で説明会を行うなど、当センターの存在を

知ってもらい、在宅医療を身近なものと感じてもらうための活動を積極的に行った。また、地域ケア会議にも参加し、ケアマネジャーなどの専門職からの相談を受け、一緒に訪問し、介入のタイミングやケアの内容を検討しながら訪問診療や訪問看護を導入している。訪問実績は、地域住民への周知が広まってきたことや専門職の協力を得て、地道な活動や信頼を積み重ね、上昇し続けている（図3）。

訪問診療は、「どんな依頼も断らない。どんな疾患でも診る」をモットーにしている。また、担当医制をとっており、診療には看護師も同行して現地で情報を共有している。医師は、総合診療の指導医でもあるため、看護師は診察に同行することで、フィジカルアセスメントの勉強の機会にもなっている。さらに、当センターは運営主体が大学附属病院であるため多くの医学生や研修医も実習に来ており、人材育成の場ともなっている（写真）。開設当初に比べると、終末期や医療依存度の高い患者も増えており、2022年1月末現在、開設から18カ月で在宅での看取りは17人となった。

訪問看護については、宮下病院からのみならず訪問看護を実施しており、医療保険と介護保険に対応している。看護師は、訪問看護の利用者だけでなく、訪問診療のみ受けている利用者にも24時間365日対応している。緊急のコールは、まず看護師が受けて内容を判断

し、担当医と連携して往診や臨時訪問を行う。

最近では長期間、特別養護老人ホームやグループホームに入所されていた方が、食事が摂れなくなり、看取りが近くなって、家族が「最期は家で看取りたい」というケースが続いた。その背景として、コロナ禍で施設や病院では面会ができないこと、「奥会津在宅医療センターが来てくれるならお願いしたい」と言っていたにしていることがある。また、「家でお姑さんを看取った友人に話を聞いて、自分も家で看取る決断ができた」とおっしゃる家族もあり、そのようなクチコミで私たちの活動が広がっていることを実感している。さらには、ケアマネジャーや民生委員、駐在所、住民の方々の協力を得て、「自宅で死にたい」と望む独居の方の看取りもさせていただいた。

## 予防医療

新型コロナウイルス感染症が蔓延する中、2020年9月には風に立つライオン基金との共催で4町村の保健師や施設・事業所の代表者を集めて「ふんわりチャンポン大作戦in奥会津」を開催し、標準予防策のレクチャーや実習を行った。加えて、ほとんどが高齢者である奥会津地域の住民が重感染（コロナ+インフルエンザ）すると、さらに重症化することが予想されたため、患者へのマスク着用や手

図3 訪問診療・訪問看護件数の推移

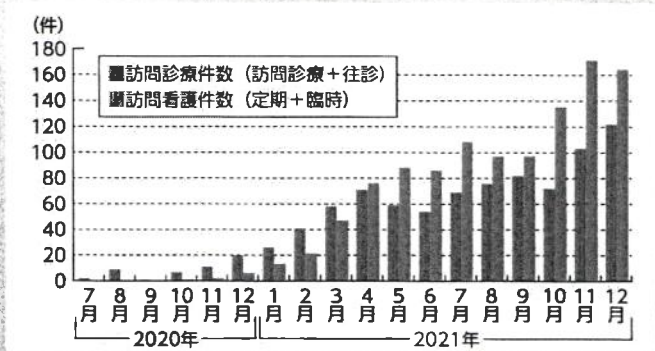


写真 訪問診療の様子



洗い徹底以外に、我々医療者ができることはインフルエンザワクチン接種を進めることであったと判断した。その考えに同意いただいた三島町西方地区と事業所にて、2020年11月にインフルエンザワクチンの集団接種を行った。

近年、この地域では集団接種が行われていなかったため、必要な準備や保健所への届出についても我々チームで調べて実施した。当時、新型コロナウイルス感染症が流行する中、まだワクチンは開発中だったが、近い将来地域でワクチン接種を行う可能性も視野に入れ準備を進めた。当日は事業所の社長や区長の協力により、計32人の住民にトラブルなく実施することができた。住民からは、「インフルエンザの予防接種はしたことがないけれど、家の近くでやってくれるから来てみた」「病院まで行けない高齢者が多いから公民館に来てくれると助かる」という声が上がった。この経験が2021年の新型コロナウイルスワクチン集団接種への協力や在宅巡回接種の実施につながった。

2021年の新型コロナワクチン接種では、4町村の集団接種への協力と在宅巡回接種を実施した。集団接種について、当センターは前年にインフルエンザワクチンの集団接種を経験していたため、大まかなイメージはできていた。しかし、行政では初めてのことで、どのように進めたらよいのかという不安の声があった。会津医療センターで行われている職員対象の集団接種を一緒に見学したり、何度も会議やリハーサルを重ねたりすることで実施に漕ぎ着けることができた。この過程で、当センターと行政や保健師とのつながりが一気に強いものになった。4町村の新型コロナウイルスワクチン接種は、2021年5月6日か

らスタートし、延べ2,369人（全住民の31.7%）に対して、4,300回の接種を行うことができた。この4町村では、2021年8月末までに宮下病院や各診療所での実施と併せて、希望する12歳以上の住民への接種が完了した。現在、4町村と協働で3回目接種の準備を進めているところである。

## 奥会津で在宅医療を 根付かせるための課題

### ◆医療・看護の提供内容に見合った 収益の確保

医療過疎地域では、在宅医療を「持続可能なもの」にすることが必須条件である。報酬や加算を確実に得られないと、収益を確保できず補助金終了後も事業は継続できない。現在、医療コンサルタントにも介入してもらい、福島県病院局、宮下病院、会津医療センターと今後の経営方針について議論を交わしている。

### ◆看護師の能力向上

都市部では患者が急変した場合、他の医療者や医療機関に搬送すればよいが、このような僻地では医師が現場に向かうとしても時間がかかる。また、救急車で近隣市内に搬送するとしても30分～1時間半かかってしまう。看護師は医師と連絡を取り合いながら必要な薬剤なども可能な範囲で予測し、病院で確保して即座に現場に向かわなければならず、それには患者の評価、判断が何より重要である。僻地で活動する看護師ゆえの判断力を求められることの大変さはあるが、だからこ

そ、やりがいがあり、住民からの信頼を得ることができる。急変時だけでなく、電話相談や日常の訪問看護の場面でも看護師が確実な知識と技術を持って対応できるよう、アセスメント力や意思決定支援能力、調整力を養わなければならない。そのために定期的な学習会を行うと共に、日頃からチーム内で安心して相談したり、振り返りをしたりしながら学ぶことができる環境づくりを行っている。

### ◆通信状況の改善, ICTの活用

現在、訪問診療・訪問看護ともに紙カルテで運用しているが、業務の効率を考えた場合、電子カルテや訪問看護業務支援ソフトの利用が必須である。このような僻地では、対面での診療で信頼関係を構築しつつ、遠隔でもコミュニケーションが取れるようなシステムの導入も必要である。

### ◆在宅医療を受ける 住民側の利便性の向上

当センターの患者は、高齢者のみの世帯や独居、車などの移動手段を持たない方がほとんどである。特に料金の支払いについては、口座引き落としができるよう病院と交渉を続けている。

### ◆人材の確保

このような僻地では、医師だけでなく看護職や介護職、福祉職はとても貴重な存在であり、安定した人材確保が必須である。この地で診療を担う医師を持続的に確保する仕組みづくりを行い、他の職種についても「奥会津で働きたい!」と感じてもらい、共に活動する仲間となってくれるよう、我々自身が魅力

的な働き方を実践していかなければならない。

\* \* \*

当センターは、奥会津の住民、専門職の皆さんと一緒に考え、実践しながら「安心して暮らすことのできる魅力的な奥会津をつくる」ために活動している。そのために訪問診療・訪問看護を行っているが、これは手段であり目的ではない。奥会津地域に在宅医療を根付かせるために、当センターは挑戦を続けている。

#### 引用・参考文献

- 1) 福島県ホームページ：年齢別推計人口（令和3年6月1日現在）  
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/11045b/15859.html>（2022年2月閲覧）
- 2) 総務省統計局ホームページ：人口推計  
<https://www.stat.go.jp/data/jinsui/pdf/202106.pdf>（2022年2月閲覧）
- 3) JMAP地域医療情報システム  
<https://jmap.jp/cities/search>（2022年2月閲覧）
- 4) 国土交通省国土地理院ホームページ：令和3年全国都道府県市区町村別面積調（10月1日時点）  
<https://www.gsi.go.jp/KOKUJYOHO/MENCHO/backnumber/GSI-menseki20211001.pdf>（2022年2月閲覧）
- 5) 福島県ホームページ：福島県の高齢者の数（65歳以上人口）～「敬老の日」にちなんで～  
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/404374.pdf>（2022年2月閲覧）

**43種類の説明マニュアル表がダウンロードできる!**

**医療福祉相談  
診療科別 便利帳**

著者 向山憲男  
監修 黒木信之

入退院支援に係わる  
診療報酬・介護報酬が  
時間軸でわかる!

自施設に  
あわせて 改編できる!

病棟から在宅への  
架け橋となり  
外来でも  
切れ目のない  
入退院・在宅  
医療支援を実践!

【編集・執筆】黒木信之  
一般社団法人名古屋医師会  
地域包括ケア推進課  
スーパーバイザー/医療福祉士専門官

B5判 368頁  
定価 3,565円  
(税込)

主な  
内容

- 診療科別医療福祉相談
- 医療費相談
- 療養中の生活問題への援助
- 入退院支援相談
- 在宅医療における医療福祉相談

見本ページは 日総研 601881 検索